

林文子先生を偲んで

## 林 文子 先生 追悼

宮田 伸樹

よく気が付かれることや、繊細なことなど林文子先生の御性格についてはよく言われている。また、お話をする時はいつも多弁だったのも有名であった。

しかし、それに加えて相手の窮状には親身になる親分肌のところがあった。3年ほど前に、私の実家で急に管理者を必要とする事態が生じた。考えたすえに、林先生に電話で事情をお話し、一度お願いにあがりますので何時がよいでしょうかと申し上げたところ、「先生ならいいわ、説明なんかに来んでもいいわ。私で役に立つんならなっただげるわ。どんな書類が要るの、何時までに揃えりゃいいの」だけだった。

快諾して頂いて、2日後に伺った時には書類がすべて揃っていた。この時の林先生は、多弁ではなかった。申し訳がないので、事情を説明しようとする私に、「いいと言ったらいいのよ、聞いたって要るものは要るんだから」と、太っ腹だった。救われたと思った。女性にはこんな態度は珍しい。持参したオレンジを、こんなには食べられないから一個だけ貰っておくわ、と大部分は受け取られなかった。自宅に帰ってオレンジを食べながら、次第を家族に話した。

上記以外にもいろいろと御世話になったが、あの時の思い出が最も鮮明である。そして、あの様な態度は林先生の多くの御交遊の方々もあまりご存知ではないだろう。亡き林文子先生を偲んで、思い出と御禮を申し上げた。

謹んで御冥福をお祈り致します。

(愛知医科大学教授放射線医学教室)